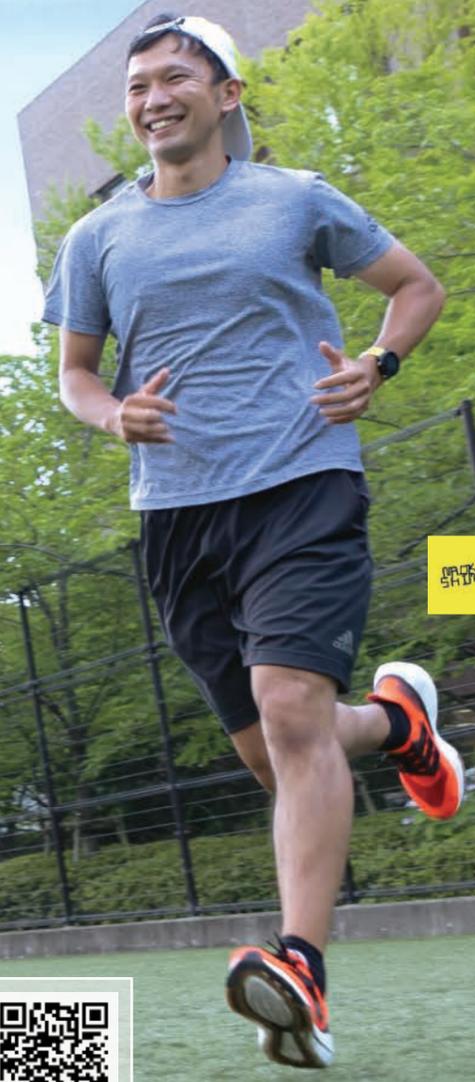




人と社会に笑顔を。
走った軌跡でアートを描き、思いを届ける

プロGPSランナーの 夢と挑戦

GPSランナーのプロとして活躍する志水直樹さん。GPSランとは、ランニングアプリのGPSトラッキング機能(走った軌跡が記録される機能)を用い、文字や絵を地図上に描いていくこと。その作品は「ランニングアート」や「GPSアート」などと呼ばれ注目を集めています。「RUN FOR SMILE!」をテーマに繰り広げられる活動には、どのような思いが込められているのか。今日までの歩みや今後の目標についても伺いました。



プロGPSランナー
しみず なおき
志水 直樹 さん

新サイト
「KONAN-PLANET」にも
志水さんの関連記事を掲載しています。
ぜひこちらもご覧ください。



西宮神社「福男」の日、 アイデアは、舞い降りた

志水さんは、小学校の教諭からプロGPSランナーへと転身した。人生を大きく変える決断の背景には、どんな出来事があったのだろうか。「特別支援学級で脳性まひの子どもの担当したことが契機になりました。その子の好きなタブレットを使って一緒にスポーツを楽しむことはできないか。インクルーシブスポーツ(障がいの有無に関係なく多様な人々が参加できるスポーツ)の可能性を真剣に考えるようになったのです」。アイデアがひらめいたのは、思わぬ場所だった。「2016年、西宮神社の開門神事「福男」の列に並んでいたときのことです。マップアプリで最短ルートをたどっていたら、『西』の文字になることに気づきました。そこでパレンタインダーにランニングアプリを使って『西宮 LOVE』と走って描き、SNSに投稿してみたら予想を超える反響が。これだ!と思いました。GPSランなら、障がいがある子どももスマホやタブレットで参加できる。教育や福祉の現場にスポーツの楽しさを持ち込めると直感した瞬間だった。例えば、小学校教諭への道も型破りだった。大学卒業後、建設コンサルタント会社勤務を経て小学校支援員に。その傍ら通信制大学で教員免許を取得し、2013年、西宮市の小学校教諭へ。あまりにも遠回りに見える道のりだが、「最初から先生になるつもりで一般企業に就職しました。社会を知り、視野を広げてから教育の道に進みたかったのだ」とこく当たり前のように笑顔で語る。

国境を超える力を確信。 プロGPSランナーへ

台湾での経験もGPSランナーへの転身を後押しした。東日本大震災の翌年から南三陸町でボランティア活動を続けてきた志水さんは、2018年2月、台湾花蓮市で大地震が発生したことを知るや否や、現地へ。かつてリアス式海岸沿いを200km走った際、東北の人たちが口々に語っていた台湾の人々への感謝を伝えるためだ。『日本♡台湾』『花蓮加油』が「ばれー」と描きながら走りまわった。その年末にも再訪し、GPSメッセージを描いた旗を自転車にくくりつけて台湾1周約1000キロを走破したんです。この様子は複数のメディアに取り上げられ、被災地花蓮市長との台日友好会見が実現するまでになった。「帰国後もスマホが鳴りやまないほど取材が続きました。多くの人々が『こんな形で思いがつながるなんて感動した』と言ってくださり、GPSランには、国境を超える力があると確信しました」。2019年3月、志水さんは惜しまれながら小学校を去る。その後、adidas RunTasticから日本人初、公式アプリ『adidas RUNNING(旧RunTastic)』ワールドアンバサダーに世界22人のうちの一人



2018年花蓮地震の際は、現地に渡り「日本♡台湾」を描いた。



志水さんがランニングし描いた「甲南」の文字。どの作品も一筆書きだ。

コロナ禍でも楽しめる！ 可能性にメディアが注目

だが、想定外の事態が起きる。新型コロナウイルス感染症の拡大だ。「予定されていたイベントの中止が続きました。マスクをつけて走る危険性も指摘されるなど、ランニングを楽しむことが難しい状況になってしまったんです。そこでGPSウォーキングやGPSプロギング(ゴミ拾い)など走らなくてもスポーツとアート、さらにはSDGsにも取り組める仕組みを考えました」。その活動に多くのメディアが注目する。各局の情報番組で取り上げられたほか、番組のコンテンツ監修を務めるなどテレビ出演が相次いだ。「企業や自治体の方から『多様な人々がコロナ禍でも楽しめるスポーツを』というオファーが増えました」。コロナ禍という状況下でも、志水さんは複数の企業、自治体、大学などとコラボレーションを重ね、実績を築いていく。また、型にとらわれな

大学で留学生と交流。 企画・行動力も養った日々

常には挑戦を続ける生き方は、どこで身につけたのだろう。「原点は、イギリスで過ごした子ども時代です。わずか2年ほどでしたが異文化の中で過ごす寂しさや楽しさを味わいました。大学で児童労働やフェアトレードなど世界の現実を学び、留学生が集うあじさいのーむで異文化交流をした経験も問題意識を深めてくれたと思います。友人とフットサルサークルを立ち上げて近隣大学とリーグ戦を開催するなど企画・行動力も養いました。今も、自らをランナーであると同時に教育者だと語る志水さん。「環境問題やコミュニティの活性化、高齢者の健康維持など、さまざまな社会問題を楽しみながら解決する仕組みをつくりたいと思います。『競わないスポーツ』だからこそ可能な出会いや交流の喜びを多くの人々に伝えたいですね」。RUN FOR SMILE! 笑顔の先に健やかな社会を見つめて志水さんは人生という道を走り続ける。



PROFILE
プロGPSランナー 志水 直樹さん
2009年、文学部歴史文化学科卒業。小学校教諭を経てプロGPSランナーへ。メッセージや絵などを走って描く「RUN FOR SMILE!」活動が評価され、自治体・企業などとのコラボイベント多数。2021年、アジア競技大会(Asian Games Aichi-Nagoya 2026)公式イベントのコーディネーターに就任するなど活躍の場を広げている。